

マスコミ各社はジャーナリズム精神で真実を報道しろ! 不時着ではない! オスプレイは墜落した!



12月13日午後9時過ぎ、沖縄県名護市東海岸から約1キロの沖合で、米軍MV22オスプレイが墜落した。しかし稲田防衛大臣をはじめ、日本政府は米軍発表の「不時着した」に悪びれもなく追随した。また在沖米軍トップは、県側の抗議にも「県民は感謝すべきだ」とまで居直り、6日後には早々と飛行を再開までした。

まるで政府自らが「植民地意識」そのものであり、とても独立国とは思えない。それにもまして許せないのが、マスコミ各社の体たらくではないだろうか?

この時期は、ロシアのプーチン大統領の来日と重なり、その口実をいいことに、「オスプレイ墜落の報道」は殆どが封印されたといっている。まさに戦時下の大本営発表を垂れ流した当時の状況と同じであり、とても今の北朝鮮の体制を批判できる立場にはない。

当初この一報が入った安倍政権中枢は「政権を揺るがしかねない一大事」と危機感をあらわにした。もしメディアによって真実（追及）の報道がされたならば、間違いなく安倍の致命傷になったはずである。

今臨時国会では、安倍の呼び掛けに「スタンディングオーバーション」にはじまり、国民を徹底的に無視した「TPP・カジノ・年金抑制の強行採決オンパレード」、また南スーダンの武力紛争を頑なに「衝突」とする防衛大臣など、この異常性がメディア側の自主規制や忖度によって、真実の報道がされることはなかった。

戦時を彷彿させる安倍政治の「一億総懺悔の空気感（支持率）」が、メディアによってつくられている。すでに戦時体制下である。